

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970101842
法人名	有限会社 ハヤシ
事業所名	グループホーム エル・ハヤシ学園前センター
所在地	奈良県奈良市学園朝日町12-10 (電話) 0742-52-7606

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年6月25日

## 【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 24 人
職員数	24 人 常勤 1人, 非常勤 23人, 常勤換算 10.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000~49,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有( ) 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または一ヶ月当たり 40,000 円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	12名	男性	3名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 74歳	最低	57歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人勝井会 勝井クリニック 医療法人松下会 東生駒病院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

学園前の閑静な住宅街にあるホームです。元が社員寮ということもあり、段差が多くありますが、比較のお元気な入居者が多く、ホーム内を自由に行き来されています。「音楽をもって心を豊かにする」という理念の基、職員が専門家からの指導を受け、音楽療法に力を注がれています。メロディに触れることで、皆さんの笑顔が多く見られ、年に一回、舞台にたったの発表会に向けて、活き活きと取り組まれています。習字等のお稽古事やレクリエーションも豊富で、落ち着いた雰囲気の中で、様々なことにチャレンジできる場を提供されています。家族に宛てたメッセージカードを作成する場では、字を書いたり、絵を描いたりすることで、症状の緩和につながっています。ホーム主催の夏祭りには、地域の方々が多数参加され、入居者が接待する場面もあり、温かい交流が図られています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で話し合った改善点は、向上したいとの気持ちは持っていますが、あまり進んでいない状況です。評価を受審することは、有意義なことと認識されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員から意見を聞いて管理者が行いました。職員には、ミーティング等で外部評価についての意義の周知を図っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、地域住民、家族、職員等をメンバーとし、年に3回程度開催しています。ホームの取り組み、認知症、介護保険等について話した後、質疑応答しながら、様々なことについて話し合う良い機会となっています。今後は、開催頻度を増やして、さらに開けたホームになるように考えています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に窓口の記載を行っています。また、家族会や運営推進会議に意見を聞く機会となり、それぞれに回答しています。また、年に一回、ご家族が意見を述べやすいように、会長に直接返信される家族アンケートも行い業務に活かしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、文化祭や盆踊りなどの行事に参加しています。小学校との交流も行い、地域との関わりを少しずつ増やしています。ホーム主催の夏祭りには、近所の方々が多数参加して下さいました。また、定期的にボランティアが大正琴を弾きに来てくれています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳を守り、ホームの開設時に、法人の理念を基にしたホーム独自の理念を掲げている。特に音楽療法に力を入れていて、笑顔が多く見られるようにとの思いを込めている。	○	地域の中で暮していくことについて、明確な文面で理念に付け加えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関と、職員用の机の前に掲示している。勤務交代時のミーティング時に理念を意識した話をしている。困難な場面や日々のケアの場面で理念に立ち戻り、考えて行動している。月に一度の会長の講演でも、理念や方針についての話がある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、文化祭や盆踊りなどの行事に参加している。小学校との交流も行い、地域との関わりを少しずつ増やしている。ホーム主催の夏祭りには、近所の方々が多数参加して下さった。定期的にボランティアが大正琴を弾きにきてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員から意見を聞いて管理者が行った。職員には、ミーティング等で外部評価についての意義等の周知を図っている。前回の外部評価で話し合った改善点は、向上したいとの気持ちは持っているが、あまり進んでいない状況である。評価を受審することは、有意義なことと認識されている。	○	自己評価や外部評価を、日々のサービスの振り返りととらえ、質の向上につながっていくような取り組みを期待する。職員全員で自己評価を行い、具体的な対策を立てられてははいかがでしょうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地域住民、家族、職員等をメンバーとし、年に3回程度開催している。ホームの取り組み、認知症について、介護保険等について話した後、質疑応答しながら、様々なことについて話し合う良い機会となっている。今後は、開催頻度を増やして、さらに開けたホームになるように考えている。	○	広く情報を発信、アドバイスを得る場として、行政にも働きかけられ、2ヶ月に一度の開催を期待する。

グループホーム エル・ハヤシ学園前センター

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法律や困難事例について相談する機会を持っている。市町村からの問い合わせにも随時対応している。	○	運営推進会議の議事録を持って行ったり、日頃からの連携を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月支払いにホームに来てもらっている。その際、意見を聞いたり、入居者の様子を報告している。金銭管理については、預かり金対応で、出納帳で収支を管理し、家族に報告し確認いただいている。領収書は返さず、ホームで保管している。家族の訪問がない時は、電話で報告している。	○	毎月の様子や、行事、写真等を載せたホーム便りの作成が望まれる。領収書はコピーを保管し、原本はお返すことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に窓口の記載を行っている。また、家族会や運営推進会議に意見などを聞く機会となり、それぞれに回答している。年に一回、ご家族が意見を述べやすいように、会長に直接返信される家族アンケートも行い運営に活かしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一人ひとりの勤務日数が少ない分、職員数を多く配置している。職員の採用時には、入居者の状態を説明し、理解した上でケアに入ってもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、法人での研修には全職員が参加している。シフトの関係で参加できない場合は、資料を回覧したりで共有を図っている。法人では、外部からの講師を招いて様々な研修の機会を作り、サービスの向上に努めている。ホーム独自でも、事例に基づいて勉強会をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは、情報交換等交流を持っている。奈良県介護支援協会に加入し、勉強会等に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には生活歴を聞き、今までの生活が継続できるよう工夫している。声かけにも注意し、馴染んでいただけるよう配慮している。家族とも連携を密にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意なことについて教えてもらったり、コミュニケーションを多くとりながら、喜怒哀楽を共に生活することを心がけている。年配の職員が多く、共通の話題が豊富で、音楽についても会話が弾んでいる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族から直接意向を聞くほか、生活歴やその時の言動から思いをくみ取り、ミーティングや連絡ノートで共有している。一人ひとりに担当職員がいて、より思いを把握するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にも協力していただいて、介護計画を作成している。センター方式でのアセスメントにも取り組み始めたところである。	○	介護計画には、家族だけでなく、入居者の意見や希望を明確に書くことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、再アセスメントを行い計画の評価をしている。6ヶ月に1度程度、介護計画について見直している。状態が変わった時には、その都度に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康診断で提携病院に同行する事を支援している。家族の希望等により、個々にあわせての通院や、散髪にも同行している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。提携医が多いが、以前からの医師との連携もある。歯科医と歯科衛生士の訪問もあり、口腔ケアに努めている。医療連携加算として、24時間の訪問看護との連絡体制も整えている。職員に准看護師を配置している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に法人で定められた看取りの指針を提示し、説明を行っている。その時になれば、医師、家族や職員とも話し合いを重ねながら、看取りに取り組む予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには同意をもらっている。個人情報等は適切に保管している。言葉使いも丁寧にするよう注意を払っている。不適切な場面があった場合は、管理者が指導している。入浴時や排泄時にはプライバシーに充分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間を決めずに、その都度意思を聞き、一人ひとりの生活のペースに合わせて支援している。その時々希望には、できるだけ対応できるように努力し、家族にも協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的に業者からの仕出し弁当であるが、盛り付けや配膳、後片付け等できることを一緒に行っている。夕食には、味噌汁や小鉢物一品を手作りしている。介助のいる方には、隣に座りサポートしているが、職員は個々に食事を持参し、同じ物は食べていない。月に一度は、会長が料理を振る舞い、入居者は喜ばれている。	○	食事が楽しい時間になるよう、また、検食の意味からも、一人でも同じテーブルで同じ物を食べられてはいいかでしょうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は必ず入浴している。午前と午後の希望の時間に入浴ができるよう支援している。これからの汗ばむ季節には、毎日でも入浴を支援したいと考えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭で花を植えたり、音楽や手作業等、一人ひとりの生活歴や趣味に合わせて、楽しみごととなるように支援している。ホームでは多彩なお稽古事やレクリエーションがあり、楽しみ事の場면을積極的に作っている。特に音楽療法には力を入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に合わせて散歩や買い物に出かけている。ドライブや外出行事等で遠出することもあり、関連法人の施設で露天風呂を楽しむこともある。庭に出るだけでも気分転換になる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全面を考え、玄関、ユニット毎の階段に施錠している。家族からも同意をもらっている。外出傾向のある方には、外へ行きたいときに一緒に行動し、落ち着かれた頃、ホームに戻って来ていただいている。自分で鍵を開けられる方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホーム独自で避難訓練している。夜間を想定しての訓練も行っている。運営推進会議でも災害についての話をしている。	○	消防署に働きかけて、年に一回程度合同で避難訓練や、運営推進会議などを通じて、地域の住民の方にも協力していただき、避難訓練等の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し記録している。制限のある方には量で調整している。嚥下状態に合わせて、キザミにしたりお粥にしたりで対応している。	○	水分摂取の面から、昼食にも汁物をつけられてはどうか。仕出弁当では品目は多く摂れるが、カロリーの面でどうなのか、法人の栄養士に協力をもらってはいかがでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾ったり、ソファを置いて快適な空間作りに気配りをしているが、リビングの椅子やテーブルは、機能的ではあるが、安全面、雰囲気は少し、物足りない。またはトイレの臭気対策に芳香剤などの対策は立てられているが、臭いが少しこもってしまっている。	○	パイプ椅子については安全面や座り心地等を考慮すると、工夫された方がよいのではないのでしょうか。また、テーブルにはクロスを掛ける、ランチョンマットを敷く等で家庭的な雰囲気が出るのではないかと思います。また、芳香剤だけでなく、頻繁に換気をすることで、臭いがこもらなくなるのではないのでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込み、以前と同じような配置を考え居心地の良い居室をつくっている。写真、人形などを置き、その人らしい空間になっている。箸や湯のみ等の食器類も持ってきていただいている。		